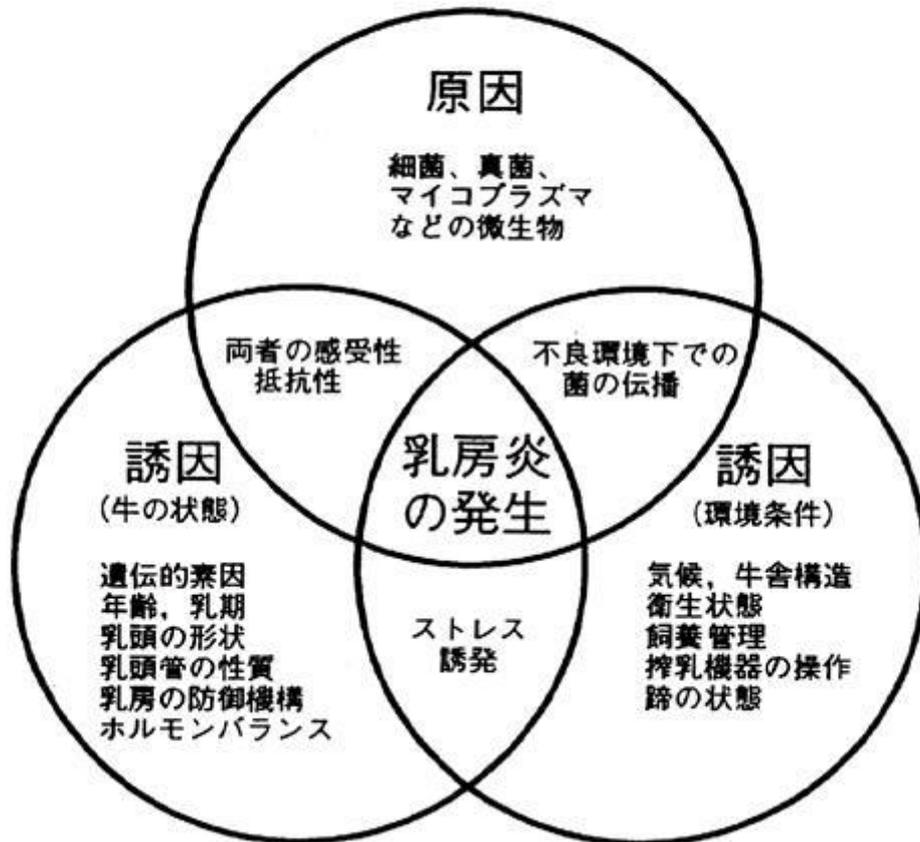


## ◆ 第15回 乳房炎と硬い握手をしましょう？

乳房炎の原因は、図1のように非常に多くの項目が関係しております。

図1:乳房炎の原因と誘因(全国農業共済協会、1993)

牛の健康、特に乳房の機能を正常に維持するためには多くの事に注意しなければならない

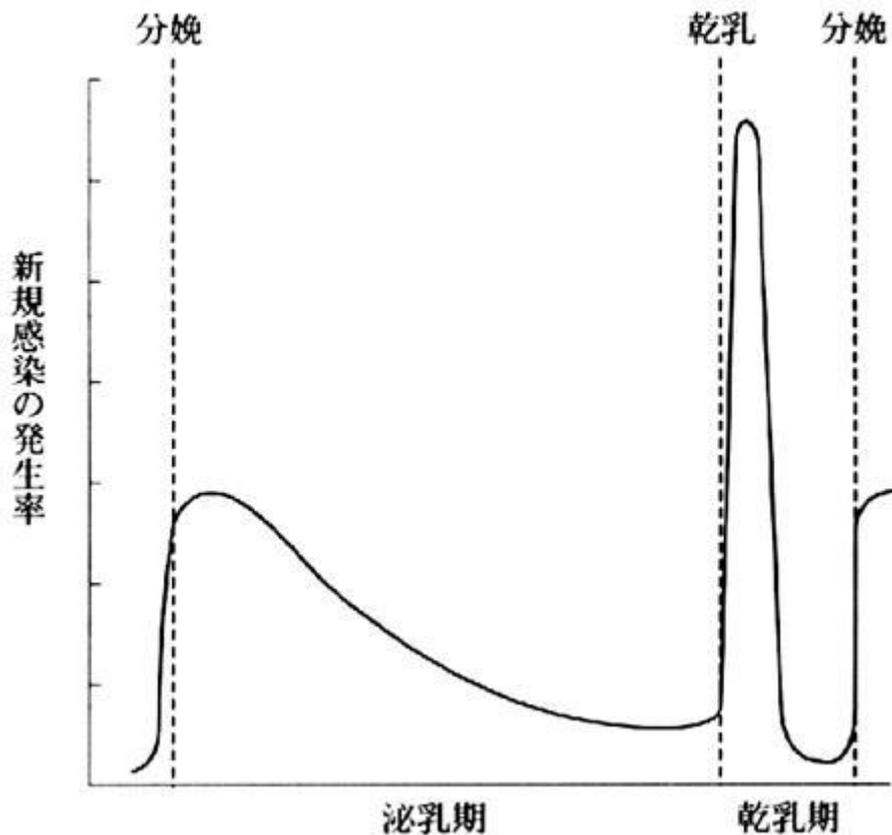


過去に、消毒と吸血昆虫の駆除のために消毒液や殺虫剤を牛舎に定期的に散布する事や、ビタミンA剤の過剰投与(乳房内の粘膜の細胞を細菌感染に対し強くするため)が試みられましたが、効果はほとんど認められませんでした。

ところで、牛舎のクモの巣は細菌感染の理由になりますか?(床から舞い上がる、あるいは天井から落下するゴミをつかみ、ハエや蚊を捕まえる自然の蚊帳と考える研究者もおりますが?)

乳房炎の発病時期は、お産後の最高泌乳量となる1～2カ月間と、次の搾乳の準備期である乾乳期で高くなっております(図2)。

図2：乳房炎の発症時期 (Natzke, 1981)



お尋ねしますが、お産前後に乳房を優しく触る事は必要ですか？(乳房は、酪農家にとって黄金を生む打ち出の小づちだと思いますが)

乳房炎を患った牛は、生涯乳房炎を持ち続けると言われております(慢性乳房炎や潜在性乳房炎となり、症状は認められないため正常と思い込んでしまう)。

乳房炎による被害を少なくするため、積極的廃用(個々の乳牛の収益性の低い下位20～30%の更新)と、消極的廃用(繁殖障害など疾病による淘汰)による経営悪化にならないよう、健康な育成牛の確保を考えましょう。

個々の牛の長所を見抜き、表1の数値を参考に、牛の経済寿命を全うするよう乳房炎とスクラムを組む必要があると考えます(勝つと思えば、お前が負けよ！)。

表1：乳房炎の予防を考える時の大切な数値 (安里、1999)

1. 体細胞数	
個体乳	20万/ml未満
バルク乳	20万/ml未満 (安定して10万/ml前後を推移する)
体細胞数20万/ml以上の牛の頭数割合	検定実施牛の20%未満
2. バルク乳の生菌数	
	1万/ml未満
3. 臨床型乳房炎の発生率	
	1年間の臨床型乳房炎発生延頭数が経産牛頭数の20%以内
4. 全搾乳牛の細菌検査を実施した場合の細菌陽性率	
頭数別	50%未満
分房数別	20%未満